

## change of pace の CONCEPT

全道大会では、“技のデパート”のような選手をしぼしば見かける。彼は、試合中に様々なテクニックの抽斗ひきだしを開け、いろんなものを見せてくれる。ネットプレー、ライジングショット、ドロップショット、ドライブボレー……一つの局面で二つのオプションがあるときには、わざわざ難しい方の選択肢を選んでもるんじゃないのかと思えるほどだ。ただ、巧いわりにあんまり強くない。

テクニックの抽斗ひきだしは多いに越したことはない。また、抽斗ひきだしにどんなステキな宝物が入っているとしても、時々開けて出して見なければ、いざというときに取り出せなくなる。あんまり開けないでいると、宝物を入れたことさえ忘れてしまう。宝は大いに磨いておくべきであり、持ち腐れは避けたいものである。

ここで大切なのは、試合中にその抽斗ひきだしを“いつ開けるか”、ということ。そして、その根底に“change of pace の CONCEPT”がある。それは「うまくいかなくなったら、悪い流れを断ち切れ」ということ。ベースラインでハードヒットする抽斗ひきだしの道具がうまく機能していないのなら、別の抽斗ひきだしを開けて、だらだらロブを上げ続けろ。深くアプローチしてネットに詰める、ということである。もちろん、その対偶にあるのは「うまく行っているときは、その流れを続けろ」。むやみに別の抽斗ひきだしを開けるな、という真理である。

“技のデパート”くんは、たくさんの抽斗ひきだしの中に、チューンナップして使い込んだ様々な道具を入れている。でも、試合中にその抽斗ひきだしの開け閉めが頻繁過ぎるのだ。ベースラインの打ち合いがうまく行って、せっかく流れを引き寄せたというのに……その道具が彼の手にやっと馴染み始めたというのに、わざわざ道具を取り替えてネットに詰める。抽斗ひきだしの中の道具を全部見せなくちゃ気が済まないみたいだ。そのプレーはその局面で、彼に貴重な1ポイントを提供してくれるかも知れない。しかし、流れは確実に断ち切れられ、新しい流れの展開が始まる。当然、悪い流れを引き寄せてしまうこともある。

全豪で、錦織のワヴリンカとの試合。最後のタイブレークは見応えがあった。5ポイントを連取され0-5ダウン。そこから彼は驚異的な粘りを見せて挽回し、一時は6-6にしたのだ。次のプレーもベースラインで激しい打ち合いになり、ラリーの中で錦織が選択したショットは“得意の”ドロップショット。しかしボールはネットを越えず、錦織はしゃがみ込んでしまう。タイブレークはワヴリンカ7-6アップのマッチポイントになり、結果は……。福井烈は「あのドロップは正しい選択だった」とコメントしていた。でも、どうだろう、あの局面での change of pace は本当に正しかったのだろうか。仮にあれが決まっていたとしても、彼はあのドロップショットで、せっかく引き寄せた流れを断ち切ってしまったのではないだろうか。もし、ベースラインで打ち合う自分のストロークを心から信じるのができたら……いやいや、燕雀えんじやく安んぞ鴻鵠こうこくの志を知らんや。燕や雀こうこくのような者に、鴻鵠こうこく（オオトリ）の思いがわかろうはずもない。